

# 4 接触皮膚炎のイメージング

## Imaging of contact dermatitis

小野さち子

ONO Sachiko

京都大学大学院医学研究科皮膚科学

本田哲也

HONDA Tetsuya

京都大学大学院医学研究科皮膚科学講師

### Summary

外来抗原の皮膚侵入に際し、ケラチノサイトなどの皮膚構成細胞、マクロファージ・肥満細胞などの自然免疫系細胞、樹状細胞・T細胞などの獲得免疫系細胞は協調して免疫応答を誘導し、抗原排除に働く。近年、二光子励起顕微鏡を用いることで、これらの細胞の生体内動態についてリアルタイムの観察が可能となった。接触皮膚炎においても、マウスモデルを用いた観察より、樹状細胞、マクロファージ、T細胞、肥満細胞といった各種免疫細胞の皮膚局所での時空間的動態—細胞間相互作用について、新知見が続々と得られており、皮膚免疫制御機構の新たな側面が明らかとなりつつある。

#### 二光子励起顕微鏡

近赤外光を使い光子励起を行うことで、組織のダメージを軽減し、より深部組織までの観察を可能とする顕微鏡。マウス耳介皮膚であれば皮膚全層を観察することが十分可能である。

#### iSALT(inducible skin-associated lymphoid tissue)

誘導型皮膚関連リンパ組織。皮膚において炎症時に誘導される、組織マクロファージ—真皮樹状細胞クラスター—エフェクターT細胞の一連の相互作用ならびに細胞の会合のこと。

#### KEY WORDS

二光子励起顕微鏡 / iSALT / 真皮樹状細胞 / マクロファージ / エフェクターT細胞